

短時間集中豪雨対策のイメージ

	排砂・通砂実施期間			代表的なダム流入状況	各ダムにおける運用の概要
	6月	7月	8月		
通砂（6月～8月） （排砂後に 出し平ダム 480m³/s、 宇奈月ダム 650m³/s のいずれかを上回る洪水が あった場合） 水位低下、自然流下を伴う	排砂 ▼			梅雨期間における洪水の例 両ダムが自然流下に至るまで、約20時間	
試験的な通砂（6月、7月） （排砂後に 出し平ダム 300m³/s超過 480m³/s以下、 宇奈月ダム 400m³/s超過 650m³/s以下 のいずれかの出水があった 場合） 前線通過を伴うなど、出水の継続時間 が比較的に長い場合 水位低下、自然流下を伴う	排砂 ▼			梅雨期間における出水の例 自然流下時間、約12時間以内	
短時間集中豪雨対策 （8月） （出し平ダム 300m³/s超過 宇奈月ダム 400m³/s超過 のいずれかの出水があった 場合） 前線通過を伴わないなど、出水の継続 時間が短い場合 水位低下を伴わない	排砂 ▼			短時間集中豪雨の例 （H20.8.19） 短時間集中豪雨においては、出水の継続時間が短く、試験的な通砂が実施出来ない。 水位低下を伴わない 短時間集中豪雨対策を実施する。 宇奈月ダム 【特徴】 ・従来の通砂方法では実施できなかった短時間出水に対しても、実施できる。 ・水位低下を伴わず、高水位で維持する。 ・排砂ゲート等により、流入する細かな土砂をできるだけ放流する。 ・堆砂面付近の水の流れによりダム湖底に酸素を供給し、土砂変質の抑制効果も併せて期待できる。 【備考】 ・作業終了については、ダム流入量、ダム操作の安全性等を総合的に勘案し決定する。 ・短時間集中豪雨対策中は、下流河川と海域において、濁りを計測する。	

参考資料 1-2

[illegible]